

これからの大学を支えるには

学生文化創造 NPO法人学生文化創造は6月20日、21日に、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、2024年度「これからの大学を支える若手職員研修会」を対面とオンライン併用で開催した。全国の国私立大学等から106人の教職員が参加した。写真。



講義1では、津田塾大学の高橋裕子学長から「大学改革と職員の役割」について、①「大学職員」という用語、②「教職協働」という言葉、③「事務職」という言葉、④津田塾大学の風景についての

講義が行われた。引き続き「大学アドミニストレーターになりますか？」等のテーマでグループワークが行われ、成果発表では高橋学長から適切なコメントがあった。

講義2では、東京大学の両角亜希子教授から「これからの時代の大学」について、①大学をめぐり状況と高等教育政策、②AI時代の大学教育、③各大学はどうありたいかについて講義が行われた。参加者には事前課題について考えてきた点についてグループワークが行われ、討議内容の発表では、両角教授から大所高所からのアドバイスが行われた。

講義3では、東京都立大学の宮林常崇理事系管理課長から「大学教育を取り巻く業務の基礎知識」について、①大学業務に役立つフレームワーク、②法規や学内規則の体系等について、具体的な法令等に基づく解説とその趣旨の講義が行われた。また、個人ワークとグループワークは課題ごとに行われ、それぞれのワークについて詳細に説明された。

講義4では、桜美林学園の大槻達也理事長から「大学の歴史を鳥瞰する」について、①なぜ高等教育史を学ぶのか、②近代高等教育システムの形成と発展について、③

学制改革と高等教育の普及、多様化について講義が行われた。予め事前課題が示され、参加者が考えてきた事柄について、グループワークで大学間の特徴を比較し、その対応策が話し合われ、その結論を発表した。大槻理事長からは各種の助言等が行われた。

4講師とも講義のほか、グループワークにより受講者に具体的に考えさせ、他大学の参加者との意見交換を進める中でワークの大切さや、その対応に当たっての留意点など、現場での対応において参考になる研修会となっていた。このほか、スチューデントコンサルタント認定者による体験報告があった。

なお、4年ぶりの対面開催のため、初日の講義終了後に任意参加の情報交換会を、2日目の講義終了後に対面・オンラインの各グループ別懇談会を実施した。